



かごんまの色

【まっほしトーン編】

 鹿児島大学 環境色彩学研究会

ISBN978-4-9910387-0-9 非売品



未来へつなげたい地域の色

私たちの生活環境を取り巻いている色。

色は身近な視覚情報であるとともに、風土や文化と密接に結びついた貴重な地域資源でもあります。

たとえば、濡羽色（ぬればいろ）や朱鷺色（ときいろ）という色。

濡羽色は、万葉集の時代から美しい日本女性の髪を形容するときに使われてきました。

朱鷺色は、朱鷺（とき）そのものがいなくなればこの世からなくなってしまうかもしれません。

山の色、海の色、土の色、樹木の色、食べ物の色、ふるさとの言葉に対して抱く色など…。

日本各地で様々な「色」という資源を見つけることができるでしょう。

それらをつぶさに見つめれば、それぞれ特有の「地域らしさ・個性（ローカルアイデンティティ）」が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

かけがえのないふるさとの色を守り伝えることで、彩り豊かな「地域らしさ」を未来へつなげていきませんか。



鹿児島県の様々な地域資源色（例）

地域共創による「かごんまの色」の策定

「かごんまの色」の策定にあたり、鹿児島大学 環境色彩学研究会は多くの方々の協力を得て

2016年から調査・研究を行ってきました。

はじめに鹿児島県全域から地域資源色を集めるため、特産品、景観、暮らしなどの領域を考慮して、138の調査対象を選定しました。

次に機械測色、視感測色、印象調査により測色調査を行いました。

そして地域のみなさんが未来へつなげたいと思う色を明らかにするため「かごんまの色総選挙」を行い、（有効投票数1530）、上位20色を示した「かごんまの色」カラーガイドを試作しました。

このカラーガイドを用いて、様々なデザインの領域やまちづくりに関わる方、高校生や大学生と「かごんまの色」の活用法について意見交換を行いました。その中で「鹿児島らしい景観や商品開発を検討する際に活用したい」、「子ども達に伝え聞かせたい」、「ふるさとの色を眺めながら鹿児島の良さを感じたい」など貴重な意見をいただきました。

これらを踏まえ、まちづくりや色彩の専門家、職人・デザイナーへのヒアリングを経て、

この度「かごんまの色」【まっぼしトーン編】を制作しました。



調査対象の選定
(2016年)



測色調査
(2016年～2019年)



「かごんまの色総選挙」
(2019年2月)



「かごんまの色」について

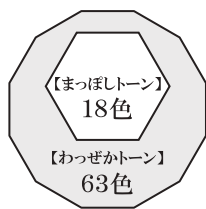
「かごんまの色」は「鹿児島県らしさ」を色で表現するために開発したカラーセットです。

「かごんまの色」は「かごんまの色総選挙」の上位色を踏まえた【まっぼしトーン*】(18色)と、その他の色に基づいた【わっぜかトーン】(63色**)に分かれています。

【まっぼしトーン】は全体的に鮮やかな色で、【わっぜかトーン】は明るい色や暗い色で構成されています。これらは配色をしたときに美しく見えるよう配慮されています。

ひとつひとつの色には、様々なデザインに活用できるよう、本研究会制作によるオリジナル色名やカラーストーリー、複数の色彩値などを付しました。ちなみに、鹿児島県の言葉で「かごんま」は鹿児島、「まっぼし」は真正面、ちょうど、ずばり、「わっぜか」はすごく、とても、非常に、という意味です。このリーフレットでは、【まっぼしトーン】18色の概要について紹介をしています。

*トーンとは色の三属性(色相・明度・彩度)のうち、明度と彩度を組み合わせたもので色調を意味します。 **2019年8月時点



「かごんまの色」の構成

①基本色名 ②オリジナル色名
かごんまの赤 | きばいやんせいろ (気張いやんせ色)

③カラーサンプル ④マンセル値 ⑤CMYK値 ⑥DIC色番号

この世には三種類の応援があると思う。心を落ち着かせる「青」の応援。明るく弾むような「黄」の応援。そして力強く、勢いよく元気を注入する「赤」の応援だ。
「まっぼしトーン」(まっぼしトーン)「に(きばいやんせ)!(いや!頑張れ!)」。頑張る人の背中を押すために、自分自身に負けないように、私たちは鮮烈な「赤」の応援を贈る。
「きばいやんせ」は、情熱的な鹿児島県民の合言葉だ。

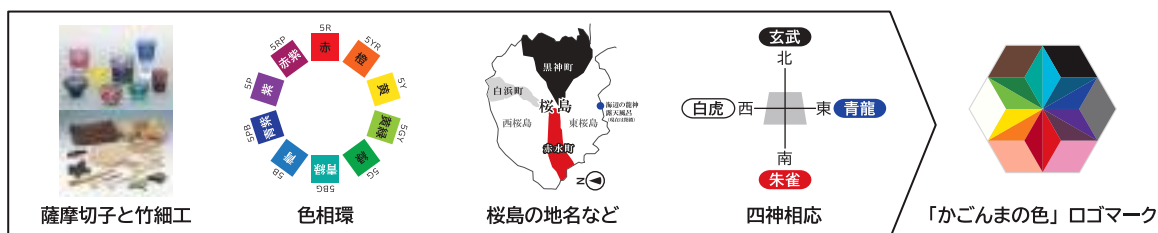
7.5R4/14
C0 M100 Y100 K10
DIC-F102

説明の見方

ロゴマークについて

「かごんまの色」のロゴマークも制作しました。色は【まっぼしトーン】を用い、形は鹿児島県の代表的な特産品である薩摩切子や竹細工をモチーフとしました。色の配置は色を環状に並べた図(色相環)や、鹿児島県のシンボルとも言える桜島の地名などの位置関係、鹿児島県でも古くから取り入れられてきた、風水によるまちづくりの考え方(四神相応)からヒントを得ました。

「かごんまの色」が、これからの時代の「地域らしさ」の方向性を指し示す、羅針盤のような存在になってほしいという願いが込められています。



「かごんまの色」カラーガイド試作
(2019年4月)



「かごんまの色 60人会議」
(2019年4月)



職人・デザイナーへのヒアリング
(2019年5月～7月)

かごんまの赤 | きばいやんせいろ (気張いやんせ色)



7.5R4/14
C0 M100 Y100 K10
DIC-F102

この世には三種類の応援があると思う。心を落ち着かせる「青」の応援。明るく弾むような「黄」の応援。そして力強く、勢いよく元気を注入する「赤」の応援だ。「だれた～(疲れた～)」「んにゃ! きばいやんせ! (いや! 頑張れ!)」頑張る人の背中を押すために、自分自身に負けないように、私たちは鮮烈な「赤」の応援を贈る。「きばいやんせ」は、情熱的な鹿児島県民の合言葉だ。

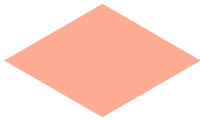
かごんまの紅 | かいこうずいろ (海紅豆色)



5R3/10
C0 M100 Y80 K30
DIC-2487

夏の日差しの下、「かいこうず」が咲き誇っている。花の形は鶏のとさかのよう。その後ろには濃緑の葉と青い空。強烈なコントラストで南国の雰囲気を実際させている。この大きな豆の木は、勇気、逞しさ、エネルギー、自由、個性、孤高、尊厳といったイメージを抱かせる。枝葉を一杯に伸ばし、「かいこうず」は堂々とした勝者のポーズをたたえている。

かごんまの薄橙 | めごいろ (目籠色)



2.5YR7/6
C0 M40 Y40 K0
DIC-C88

鹿児島県は、神話の時代から竹と深く関わってきた。縄文時代の土器にも竹の跡が発見されている。「めご」は目の詰まった美しい編み目の竹籠を指し、今でも衣食住に欠かせない道具。地元で愛されている「茶碗蒸しの歌」にも登場するほどである。この色は、使われ続けて味わい深く成長し、ぬくもり纏った「めご」の薄橙を表している。

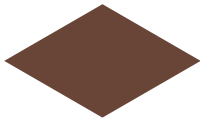
かごんまの橙 | きんかんいろ (金柑色)



5YR6.5/14
C0 M65 Y100 K0
DIC-2528

「きんかん」は、果実よりも果皮の部分が甘く、香り爽やかな可愛らしい長球の柑橘類である。鹿児島県は生産量全国第2位の「きんかん」大国。その中でも、薩摩川内市入来地区のハウスきんかんで糖度が16度以上のものは、いきブランドと呼ばれる。一口食べれば太陽をまるかじりしたような感覚さえ抱くのだ。舌や鼻だけでなく、目でも楽しく味わうことができる「きんかんいろ」を抽出した。

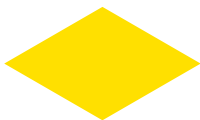
かごんまの茶色 | あつまっいろ (灰汁巻色)



7.5YR3/3
C75 M90 Y100 K0
DIC-F264

「あつまっ(あくまき)」は郷土の餅菓子。戦国時代からの保存食で、餅米をあくて煮て竹の皮に包んだものである。端午の節句には昔はこの家でも「あつまっ」を作って子どもの成長を祝った。決して派手ではないけれど、ベツ甲のように輝く「あつまっ」は、ブルブルの触感や香り、えぐみがあり、一度食べたら病みつきになるほど味わい深い。黒砂糖入りのきなこをまぶすのが一般的な食べ方だが、若い世代を中心に新たな食べ方が開発されている。

かごんまの黄 | てげてげいろ (てげてげ色)



5Y8/13
C0 M10 Y100 K0
DIC-N805

「てげてげ」とは、「適当、ほどほど」を指す鹿児島弁である。不言実行、質実剛健ばかりでは心も体もだれてしまう(疲れてしまう)。「気負いすぎることなどない」と、ほん、と肩を叩いてくれるような言葉として親しまれている。「てげてげいろ」にも、もれなく笑顔や希望がついてくる。鹿児島県を訪れたとき、「てげてげ」をぜひ使ってみて欲しい。

かごんまの黄緑 | くすのきいろ (楠色)



7.5GY6/10
C60 M5 Y100 K0
DIC-211

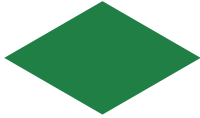
「くすのき」は鹿児島県の代表的な木。病気にも強く、天然の防腐剤や医薬品として古くから利用されてきた。街路樹や神木として、馴染みのある樹木である。

そのためだろうか、鹿児島県では新緑萌える頃、街中が一齐に爽やかで神聖な空気に包まれる。

若い木も樹齢1000年を越える巨木でさえ、生まれ変わって新葉をつける。

この色は「くすのき」の葉の表面が、陽を受けて輝く姿を集めた色である。

かごんまの緑 | おおすみだいちいろ (大隅大地色)



10GY4/8
C90 M40 Y100 K0
DIC-F304

鹿児島県を構成する双子の半島「薩摩半島」と「大隅半島」。薩摩半島が商業中心ならば、大隅半島は自然中心である。広大な大地と温暖な気候は、この地を自然の宝庫にさせている。

眩しい光、力強く伸びる植物、鬱蒼とした山地、蠢く生物の息遣い、見渡す限り続く道、その先の大海原。

現代社会に生きる私たちが「おおすみだいち」は深く、濃い緑を以てしっかりと包んでくれる。

かごんまの青緑 | おがわんたきいろ (雄川滝色)



5BG5/8
C95 M5 Y50 K0
DIC-217

南大隅町根占地区を流れている雄川上流にある滝であり、雄々しくも絹のような繊細さを誇る。滝壺には息をのむエメラルドグリーンの水。幾何学模様の節理が連なる岩肌を、伏流水がなでていく。その雄大さは、近づくことをためらうほどに圧倒的だ。

滝まで続く遊歩道で浴びる絹の飛沫と、迫り来る力強さのコントラストが印象的な「おがわんたき」は、神秘の空間に迷い込んだ感覚にさせる色である。

かごんまの水色 | きんこうわんいろ (錦江湾色)



5B6/8
C80 M5 Y10 K0
DIC-N880

地元の人たちは鹿児島湾を「きんこうわん」と呼ぶ。その由来は、山に咲く花々が鏡面のような波に映りこむ様子を錦にたとえた、薩摩藩初代藩主 島津家久氏の歌による。

「きんこうわん」は、水面は変化を常とし、同じ場所には留まらない。今も昔も移ろう人の心の鏡のよう。同時に、桜島を魅せる水の舞台であり、太平洋に向かう潮の道でもある。

この青は、「きんこうわん」が光を捉えた一瞬の永遠である。

かごんまの青 | あいおおしまいろ (藍大島色)



10B3/8
C100 M70 Y40 K0
DIC-N894

日本最古の染色技法をそのルーツに持つ大島紬。大島紬と言えば泥染めが有名だが、泥染めが発祥する前から織られていたのが、藍を用いた「あいおおしま」。

かつて「あいおおしま」は、白足袋が藍色に染まるほど色落ちしたものが上等だと言われていたが、生活習慣の変化により、現在ほとんど生産されなくなってしまった。

この色は品格漂う濃淡が美しい、今となっては幻の逸品である。

かごんまの瑠璃色 | るりかけすいろ (ルリカケス色)



7.5PB3/10
C100 M85 Y0 K0
DIC-C269

「るり」とは仏教において七宝の一つとして珍重される青い宝石のこと。その名を冠するこの鳥は、奄美大島、加計呂麻島、請島の固有種で、天然記念物でもある鹿児島の宝だ。冴え渡る青と赤褐色の、艶やかな二色の羽衣を纏い、身をよじるたび光の対流が起きる。その衣の境目は、夜明け前、あるいは日が暮れる瞬間の空のような、絶妙なグラデーションだ。

ここでは「るりかけす」の名に準じ、代表的な体色である紫がかった青色を指す。

かごんまの紫 | さつまむらさきいろ（薩摩紫色）



5P3/8
C85 M100 Y0 K0
DIC-F59

薩摩藩第11代藩主 島津斉彬氏に愛された硝子細工から抽出した色。

この色の源は、明治初期から途絶えていたが、今この時代に、島津家末裔の手で甦ることとなった。贅沢なほど厚く鮮やかに被せられた色硝子と緻密なカットが織りなす豊かな色彩の中でも、特に高貴さを放つ色である。

薩摩藩と島津氏に敬意を表して「さつまむらさきいろ」と命名した。

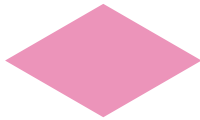
かごんまの赤紫 | からいもいろ（唐芋色）



5RP3/4
C80 M100 Y70 K0
DIC-2254

「薩摩」の「芋」と書くさつまいもは、鹿児島県では「からいも」と呼ぶ。「琉球を通じて中国（唐）から来た芋」という意味である。水はけの良い火山灰に適し、台風に強いことから鹿児島県が生産量全国1位を誇る。青果に、焼酎に、飼料にと、その用途も色々。「腹ん減ったとつ（時）のからいもん皮（お腹が空いた時にはさつまいもの皮まで食べる。空腹が一番のご馳走だ）」は郷土のことわざ。「からいも」は、鹿児島の食を下支えする大事な作物である。

かごんまの桜色 | さくらじまいろ（桜島色）



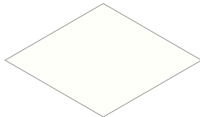
5RP6/8
C0 M50 Y0 K5
DIC-2459

彼はいつもマグマのような赤い情熱とエネルギーを内に秘め、太古の昔から人々と生きてきた。今でも堂々とした態度でここにおいて、雄大な景色や恵みを与えてくれる。

同時に、灰色の雨や噴煙は、度々人々を困らせる。その長所や短所を含め、すべては彼が生きている証であり、鹿児島県民に愛されるゆえんである。

これは「さくらじま」という巨人に抱く親しみや憧憬、そして畏怖が入り混じった色である。

かごんまの白 | かるかんいろ（軽羹色）



N9.3
C0 M0 Y3 K0
DIC-583

薩摩藩主用の献立にも残る特別な和菓子。西郷隆盛氏の好物でもあったそう。

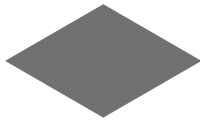
原材料は自然薯と、当時では高級品でありつつも奄美から比較的手に入りやすかった砂糖。

今では鹿児島名物として県内外の人々からも広く愛されている。

口に含めば、ねっちりふっくら、柔らかな甘みが広がる。

「かるかん」の白は、特別感とふるさとの温かみを感じさせる色だ。

かごんまの灰色 | へいろ（灰色）



N4.5
C0 M0 Y0 K65
DIC-C292

「へ」は、鹿児島の自然の厳しさを最も端的に表す自然現象である。

ひとたび降れば交通機関は止まり、人や物、各種インフラにも悪影響を及ぼす。

そんな厄介な「へ」だが、鹿児島の人々は永い付き合いの中で少しでも関係を改善できないかと

克灰を試みてきた。専用のごみ袋、路面清掃車の配備、陶磁器の釉薬としての活用など…

雄大な桜島と共に生きていくには、克灰術の開発はまだまだ続きそうだ。

かごんまの黒 | かごんますみいろ（鹿児島墨色）



N1
C10 M10 Y10 K100
DIC-F132

かごんまの黒は、無彩色ではない。この世界には彩り豊かな黒の多様性がある。黒豚、黒牛、黒さつま鶏、薩摩黒合鴨、黒大島、黒酢、黒糖、黒麹、黒ちよか、黒薩摩、黒色磨研土器、アマミノクロウサギ、黒神、黒之瀬戸、黒潮…ひとつひとつが、ふるさとに輝く色の宝石である。

かごんまのすべての地域らしさを混ぜ合わせれば、それは豊かな「かごんますみいろ」になったとさ。んだもしたん。



「かごんまの色」ご利用にあたって

「かごんまの色」は、「鹿児島県らしさ」を色で表現するために鹿児島大学 環境色彩学研究会(本研究会)が開発したカラーセットです。「かごんまの色」は利用規定の範囲内であれば、個人、法人、商用、非商用問わず無料でご利用いただけます。

ご利用に際しては、個別の許諾申請・使用料などは不要ですが、以下の利用規定をお読みいただき、同意された場合にのみご利用ください。

また、著作権は全て本研究会に帰属しています。著作権を侵害する行為については、固く禁止されていますのでご注意ください。

利用規定

1. 利用範囲

「かごんまの色」は、個人、法人、商用、非商用問わず、誰でも自由に無料でご利用いただけます。ただし、以下の場合、ご利用をお断りします。

- ・公序良俗に反する目的での利用
- ・「かごんまの色」のイメージを損なうような利用
- ・「かごんまの色」カラーセットそのものをコンテンツ・商品として再配布・販売すること
- ・その他著作権者が不適切と判断した場合

2. 著作権

「かごんまの色」の名称は商標登録出願中です。著作権は放棄しておりません。

全てのデータの著作権は本研究会が所有します。

今後の研究の参考とさせていただきますので、「かごんまの色」のご利用の際は利用者・利用目的・利用物・利用期間等をお問合せ先までご連絡いただけますと幸いです。

また、「かごんまの色」を利用した際に、クレジット表記する場合は「かごんまの色」としてください。

3. 免責

「かごんまの色」の利用は、利用者の責任において行うものとします。

本研究会は、利用者による「かごんまの色」の利用が、第三者の産業財産権をはじめとする一切の知的財産権を侵害しない旨の保証はいたしません。

内容につきましては細心の注意を払って作成しておりますが、正確性、有用性、確実性、安全性について保証するものではありません。

また、ご利用上発生する色違い、色変化等のクレームについては何卒ご容赦ください。

ご利用にあたり、不利益、損害、実績が得られない等のことがありましても一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

4. その他

全ての規定は予告なく改変する場合があります。あらかじめご了承ください。

かごんまの色【まっぼしトーン編】

ISBN978-4-9910387-0-9

2020年2月10日 初版第1刷発行

非売品

著 者 鹿児島大学 環境色彩学研究会（牧 将暉、真辺 綾音、吉留 和希、浅井 祐紀、森 未来、牧野 暁世）

発 行 者 鹿児島大学 環境色彩学研究会

発 行 所 牧野暁世 環境色彩学研究室

890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-40 鹿児島大学産学・地域共創センター
TEL 099-285-8491

協 力 鹿児島県 PR・観光戦略部かごしま PR 課、鹿児島市世界遺産・ジオパーク推進課、桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会、
鹿児島市危機管理課、鹿児島市都市景観課、公益社団法人 鹿児島県特産品協会、特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会、
特定非営利活動法人 桜島ミュージアム、関西ペイント販売株式会社 鹿児島営業所、DIC グラフィックス株式会社、
亀崎染工有限会社、era 色彩計画、鹿児島大学産学・地域共創センター、永田 泰弘、南 重秋、地域の皆様（順不同、敬称略）

*「かごんまの色」の色彩値情報はそれぞれ該当するマンセル値に基づき、CMYK 値及び DIC の色番号の近似値を選定しました。CMYK 値は印刷会社のオリジナルカラーチャートを、DIC の色番号は DIC グラフィックス（株）が発行する色見本帳「DIC カラーガイド」シリーズを用いました。

